



東京多摩プロバスニュース

第 73 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2017. 7. 5.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

豊かなキャリアをこの街に活かそう！

第 155 回 定例会

日 時 : 平成 29 年 5 月 10 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 26 名(会員数 34 名)

第 156 回 定例会

日 時 : 平成 29 年 6 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 27 名(会員数 34 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



「ホームタウン多摩で楽しもう！」

鈴木泰弘会計理事

第 14 期がスタートします。遠州浜松の「やらまいか精神」で積極的に行こうと思います。

第 13 期も、卓話や親睦イベント、プロバスニュース紙の企画を通じ、大いにクラブライフを楽しみました。稀勢の里の初優勝と宇良の「たすき反り」を見た相撲見物……10 年経っても忘れないと思う。多摩で味わった故郷浜松の名店のうなぎ。健幸都市ならではの 80 代先輩による「長寿の秘訣」の伝授。また各分野で活躍された方々の卓話。中でも「電気は……」は遮断器にかけた技術屋人生悔いなしとの話に感動。埼玉浮き城クラブ渡邊栄一氏の「忍藩と足袋」では、余間で書いた、マラソンを足袋で走った「金栗四三」が「いだてん〜ストックホルムから東京オリムピック斬〜」として再来年の NHK 大河ドラマになるという。主役は中村勘三郎、期待したい。

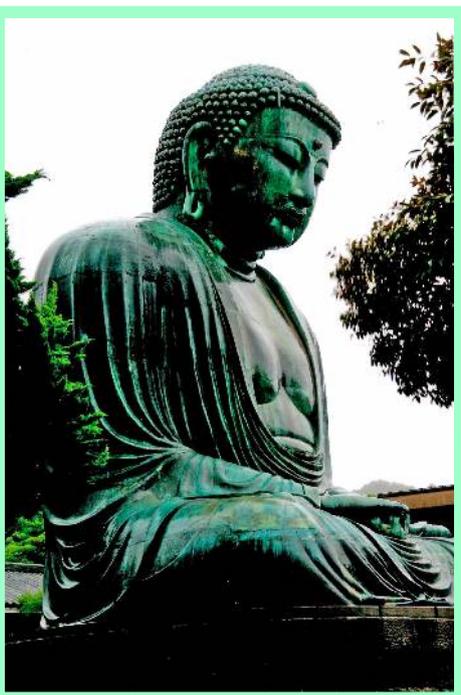
「私の故郷」シリーズは郷土愛溢れる内容に、もっと知りたく調べてみれば、1960 年甲子園に初出場した駒ヶ根市の赤穂高校は初戦、早稲田実業に 2 対 1 で惜しくも逆転負けしたという……。そうだったのか。1, 125 人の日本一人口の少ない早川町……若い頃、北岳・農鳥岳・間ノ岳の白峰三山(しらねさんざん)を単独縦走し、下山して浸かった奈良田温泉はこの町であったかと何故か感無量。

また最近プラタモリでも紹介された坂のある町尾道、それに鳥取……どこも足腰丈夫なうちに訪ねてみたいと思う。以前卓話で初めて知った「八田與一」について、今年の「歴史街道」誌 6 月号で大特集されているのだ。素晴らしいではないか。さらには多摩の古墳や縄文発掘の成果、鎌倉街道の歴史ものも一層の興味をそそられる。様々なジャンルの話しも聴けて、こんな嬉しいことはない。さあ「ホームタウン多摩でクラブライフを楽しもう」。

鎌倉大仏

鎌倉プロバスクラブとの交流会の折、

鎌倉プロバスクラブ 内海恒雄会員の案内で見学(P4 参照)



1. 幹事報告

上田清幹事

1.1. 第14期定期総会に向けた議案書づくりの中で、前年度の決算及び次年度予算の編成作業を行なった結果、各委員会等の努力によって余裕財源とされる繰越金が大幅に改善される見込みである。

1.2. 個人情報保護法が全面改正され5月30日に施行されたことから、自治会やPTA、同窓会などの個人情報も規制対象となり、当クラブの会員名簿等も適正な管理が問われる可能性があるため、対応策を検討する必要がある。

1.3. 多摩ロータリークラブをはじめ、八王子PC・浮き城PC・鎌倉PCなど多数の団体と卓話・講話等による交流活動を行なっているが、更に一層の促進を図るための協議を行ない、次年度より着実に実践していく計画とする。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

大澤亘委員長

1) 第155回定例会

定例会に先立ち、三笠会館せいせき亭で昼食会を実施、参加者27名(右図)。



引き続きの定例会では「東京湧水せせらぎ散歩」の著者高村弘毅会員による卓話「多摩の湧水散策」を開催。

関連記事P3参照

2) 第156回定例会

当委員会でも検討してきた「会則一部改定案」のうち3月1日(休)の臨時総会で承認済み以外の部分について説明し会員の意見を聴取した。その後、澤雄二会員による卓話「目指せ10万人! 訪日客招致大作戦」を実施した。

関連記事P3参照

2.2. 研修・親睦委員会

秋山正仁委員長

一泊研修会を計画(6月21日~22日)参加予定25名

一日目は鎌倉プロバスクラブとの交流会を鎌倉プリンスホテルで実施。併せて鎌倉の名所を案内していただく。交流会後、湯河原伊東園ホテルにて懇親会を行う。二日目は伊豆フルーツパーク・沼津御用邸記念公園の見学・沼津みなと新鮮館に立ち寄る。

関連記事P2&4参照

2.3. 地域奉仕委員会

村上伸茲委員長

多摩市内湧水、河川の水質調査について。

5月24日(水)有志を募り、都立桜ヶ丘公園近辺の湧水実査を実施。参加者11名。

関連記事P3参照

3.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

1) プロバスニュース第73号を7月5日(水)発行・配布。会員相互交流を深めるべく、会員各位の趣味・紀行・我が故郷・対外活動の紹介等の寄稿を期待しております。



2) ホームページの更新; 7月20日予定

研修・親睦一泊旅行

山田正司会員

鎌倉、湯河原、沼津への研修親睦一泊旅行が6月21・22日の両日に実施された。聖蹟桜ヶ丘を午前8時30分に総勢22名がマイクロバスで出発、先ず鎌倉に直行して鎌倉プロバスとの交流、観光を体験する。その様子は中村会員の別稿に譲り、私はその後のことを報告する。

猛烈な風雨の中、午後3時15分に江ノ島電鉄・長谷駅前まで全ての鎌倉観光を終了し、改めての一行19名は一路海岸沿いに西へ向かう。西湘バイパス、真鶴道路を経て湯河原温泉郷の伊東園ホテル「四季彩」に4時到着。さしもの激しい風雨は収まっていた。4室に配分されて各人は夕食の7時まで自由行動。散策、卓球、大浴場での温泉等々を楽しむ。夕食では海の幸満載、お酒飲み放題で濃密な1時間半の大宴会となる。翌朝はそろってバイキング朝食をとり8時45分にホテルを立つ。湯河原温泉郷は古くは万葉集にも詠まれ、湯権現熊野神社を中心に整備された万葉公園もある。バスは谷泊いを北上して湯河原峠を経由して国道一号線を西に三島のフルーツパークに到着。富士の裾野で豊かな水と温暖な気候で育まれた豊富な果物と、加えて海の幸も販売されており30分間を過ごす。その後新三島駅に立ち寄り、急な所要のため1名が下車して昼食処の「魚河岸丸天」に向う。

沼津漁港の一角にある小売店や食堂街は人であふれ、店内は混雑を極めていた。予約済みの食事は駿河湾産刺身満載の名物丸天井と海鮮味噌汁で、そのボリューム故に食べきれない人続出となった。食後は買い物した後、10分程のバス移動で近くの沼津御用邸見学となる。

明治22年から77年間の皇室使用の後、昭和44年から沼津市の記念公園として管理され、一部は国指定名勝にもなっている。雲の上の高貴な生活が垣間見え、興味深い見学となった。



午後1時30分、予定のスケジュールを全て終えて帰路に就く。途中東名道路手前でトイレ休憩を兼ねて竜宮海鮮市場に立ち寄る。ここを3時15分に出発して東名、厚木経由の圏央道で4時ちょうどに聖蹟桜ヶ丘に着く。最終人数18名全員が無事なのは各人の自覚の賜物であり、幹事役の秋山、滝川道子両会員、毎度の安全安心運転の石塚氏には只々感謝である。

10万人の訪日客を掴め！多摩市大作戦 澤雄二会員

去年の秋、驚くべきニュースが伝わりました。基準地価の発表です。多摩地域の全域で住宅地価が上昇しているのに、なんと多摩市だけ下落したのです。多摩地域一番の交通の便、ニュータウンとしての最高の住環境、東京一の緑被率の自然環境、豊富な観光資源など、多摩地域で指折りのポテンシャルを持つ多摩市だけなぜ下落したのでしょうか？子供や孫のために、高齢者の老後のために、若者の雇用を作り人口増加させるために、市民の豊かな生活を守る行政サービスを実現するために、多摩市を発展させる「創成・再生」政策は、まさに焦眉の急です。



市民の有識者による市民団体「2020TAMA 協議会」は一つの提言を発表しました。それは“一年間に10万人の外国人を多摩市に招く”そしてこの10万人を資産に様々なビジネスを立ち上げ、多摩市の創成・再生を実現させるものです。10万人は無謀だ！いいえ大丈夫です。多摩市の既存ホテ

ルは、現在6万人の外国人を獲得しています。残り4万人はどうするのか？心配要りません。決め手は、先日成立した“民泊法”です。この新法はこれまでの旅館業法のような規制を撤廃しました。誰でも簡単に民泊のオーナーになります。六畳一間で135万円が見込まれます。1K六畳のアパート6室の経営収支は350万円から970万円(試算)に急増します。需要はあるの？今、都心のホテルは絶対的不足状況です。2020年時には1880万人分不足すると予測されています。

多摩市の交通の便や、ピューロランドを始めとする観光資源は魅力的です。文化団体連合が日本の伝統芸能を膝詰めで体験させます。国際交流センターが進めている語学ボランティアの人たちがおもてなしをします。

様々なビジネスを生起させます。個人、アパートオーナーの収入増はまさにニュータウン再生です。市内で割付料金の日本食を楽しみ、土産を買ってもらいます。仲介業、管理業も市人で立ち上げます。その他多くの関連する起業が考えられます。

これらの提言は行政・市民・団体・企業のまさに「オール多摩」の協働によって実現されると信じています。

◆◆◆ 多摩市の湧水実査(1) ◆◆◆

多摩の湧き水際を楽しむ 高村弘毅会員

地域奉仕委員会で取り組んでいる活動「多摩市の湧水探査」に関し、第一回目の湧水実査を実施したので報告する。

日時：集合は遅延者を待って10時15分に出発。
 天気：晴れ、歩くと快適な汗が出るぐらいの良好。
 参加者：希望18名、15分ほど待って11名で出発。
 ルート：

(右図)①～⑪までの地点を順次、歳に相応しい速度で、景色になじみながら牛歩で楽しむこととした。
 見学：案内人の説明は無用で、参加者の視覚に任せることとした。



多摩市連光寺
3・5丁目付近

実査：①市立大谷戸溪流の川尻 ②鯉の池 ③ショウブ池(優勢種黄色・紫アヤメ劣勢・衰退・1輪のみ) ④火垂池(黄色アヤメ・人工水と自然湧水の落合池・この付近で6月20日頃2番目に火垂が出現) ⑤人工の湧水(暗渠からの浸出水・酸化鉄分多い) ⑥トンボ池(旧農業大学校校庭に造られた人工池：ガマ・水草多し、オニヤンマ・シオカラトン

ボ・カエル)・山麓沿いに造られた人工河川流にカワナが繁殖に適しているためか、大谷戸溪谷では6月20日ごろ火垂が最も飛び交う場所で年ごとに増加し、源氏火垂に人々が癒される場所。



⑦(独法)森林総合研究所多摩試験地・旧多摩農林鳥類研究所の湿地・柳の倒木、野鳥の営巣地。
 ⑧旧多摩農林鳥類研究所の入り口：付近に5棟の職員宿舎などがあったが今は取り壊されている。かつては試験所内から諸種の美しい野鳥のサエズリを聴くことができた。門の奥には1棟の管理棟が見える。
 ⑨都立公園多摩公園事務所所管の「子供の田んぼ」、浸みだす水利用の水田。子供たちによる田植え・稲刈りが行われる。入場には管理所の許可が必要。
 ⑩ゆうひの丘：ここから多摩市はもとより、遠方の武蔵野台地全景が眺望できる。石器時代・縄文・弥生・横穴墓時代の武蔵野の太古の生活を思い出させる場所でもある。
 ⑪湧き水の広場：多摩丘陵の脇下から湧いてできた窪地、周りの排水溝や暗渠排水で沼沢地を避けている。真ん中に人工の丘がある。

◇◇◇ プロバス交流会 ◇◇◇

鎌倉プロバスクラブとの交流会 中村昭夫会員

鎌倉プロバスクラブに私たち多摩プロバスクラブとの交流会をお願いしたところ、快く引き受けていただき、会長以下役員の方々で実行委員会を作って、この対応のために精力的に計画してくださいました。

6月21日、当クラブ会員19人と会員の家族3人を加えた22人、鎌倉PCより10人にて交流会を行いました。当日は準備いただいた式次第により、鎌倉PC 藤澤副会長の司会で、両クラブ代表として鎌倉PC 武智前会長と当クラブ倉賀野会長の挨拶で始まり、両クラブの活動紹介として鎌倉PC 楠本副会長、当クラブ中村会員よりそれぞれの活動状況の報告を行いました。

鎌倉PCでは他のプロバスでは行っていないインド、ニュージーランドのPCとの国際交流、地域活動の市内の子供食堂への支援などの報告がなされ、私たちにとってとても参考になる行事でした。

多摩PCの活動紹介では、市民講座として裁判員制度の普及のための講座、日本伝統文化と日本式作法の講座、小中学生を対象とした出前授業など、そして市の名所・旧跡・伝統文化を紹介する「多摩プロバスかるた」の制作などを紹介しました。座席は7人掛で5卓をご用意いただき、それぞれのテーブルに鎌倉PCメンバーの方々2人と当クラブメンバーが座るといふ形で、食事を共にしそれぞれのテーブル毎で話が弾み、深い交流ができました。最後に相互のクラブソングをピアノ伴奏で歌い、その後全員で「箱根八里」を熱唱して閉会しました。

その後、計画いただいた見学先に向かうため、鎌倉PCの方々も当研修旅行のバスに同乗され、鎌倉名所をご案内いただきました。

見学先は稲村ヶ崎・大仏殿・長谷寺でしたが、生憎の暴風雨が激しく大仏見学だけで終了せざるを得ませんでした。

鎌倉PC 内海氏の大仏殿での解説は大変素晴らしく多くのことを学ぶことができました。鎌倉の造詣の深さと熱意に一行感激覚め遣らぬまま宿泊先湯河原に向かいました。交流会に出席した多くの会員から、鎌倉PCの素晴らしさと交流会設定のご尽力に感謝する言葉を聞くことができました。



例会会場「鎌倉プリンスホテル・バンケットホール」にて

◇◇◇ お花見会の川柳吟行 ◇◇◇

プロバスクラブシルバー川柳入選作品

審査委員長 倉賀野武士会長

年中行事のお花見をより一層楽しもうと、新しい試みとして参加者全員による川柳・俳句等の吟行会を行うこととした。去る3月31日のお花見会で吟行、その後、数人の審査員の独断と偏見で、その中から入選作品を選考しましたので紹介します。

兼題 「桜」「お花見」	
「行くか?行く」花見の宴爺と孫	阪東
夜桜やまさかの方と手を繋ぎ	阪東
浮世では蕾の内を花という	稲田
シルバーは遺産残さずぐち残す	上田
見納めか今年も言いて観る桜	倉賀野
厳冬を堪えて惚んだ桜花	秋山
二分咲の川面に浮かぶカモの群	滝川(益)
じじばばの足どりおそい二分桜	中村
二分咲の花より団子カゴノヤダ	堀内

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

1. 江戸期関戸の多彩な文人相沢五流・伴主の足跡

堀内陽二会員

江戸時代、多摩の地は関戸(村)に幅広い文化活動を展開した、真に優れた文化人親子がおられたとか？

件名の題で講師の「多摩市文化振興財団」橋場万里子氏によるコミュニティセンター「関・一つむぎ館」セミナーが5月13日(土)に行われたので、その概要を紹介します。

相沢五流・伴主は関戸村名主の家に生まれ、筏士(いかだし：川を利用した運送業者)としてその財力を背景に江戸の当時一級文化人との交流があり、五流は絵の良き師匠を得て画業に励み、狩野派の絵師として多摩初の法橋・法眼の位を得た大画家として、数々の優れた作品を各所に残している。長男の伴主は生け花を学び、のち允中流(いんちゅうりゅう)の創始者として多摩に華道社会を作った。かくして親子共々それぞれ各地広範囲に門弟を育て、多摩の文化興隆に大いに貢献した。伴主はまた、関戸合戦の委細を記す「関戸日記」の作者として言わば歴史探索者であったし、多摩市指定有形文化財の「調布・玉川惣画図」(下図はその一部)の制作、それに関連しての玉川水源の探求や沿岸の風物、名所旧跡の調査・記録等事細かな社会探訪、今で言う学術調査・研究者としての活動で多くの足跡を残した人だったとのこと。

素晴らしい多摩の歴史の一端を学ばせていただきました。多摩の文化活動を促進した、その相沢親子の墓は関戸の観音寺にあります。

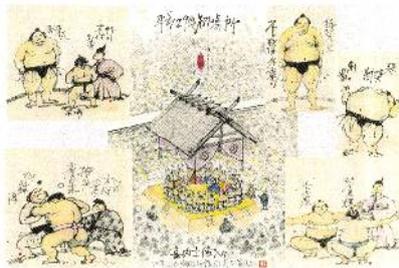


◆◆◆ 会員の活動(つづき) ◆◆◆

2. 原生会絵画展

山田正司会員

今年も年に一度の原生会展に岡野一馬会員と筆者が出席した。市内在住の60才以上の男性絵画愛好家8名によるそれぞれ個性あふれる作品2~3点ずつ計23点を集めた絵画展が、4月21日(水)~16日(日)までベルブ永山ギャラリーホールで開かれた。岡野会員の作品は地元多摩地域の誇る豊かな自然風景を題材とした、いつもの清麗闊達な筆致の水彩画2点の秀作であった。私の作品は、たまたま当クラブの研修行事で参加した、九十九里浜一泊旅行と大相撲初場所観戦が題材だったため、予想以上に大勢のクラブ会員が訪れてくれた。とりわけ大相撲観戦は私にとって初体験だったこと、この日初場所13日目は稀勢の里が不戦勝で横綱推挙が決定した記念すべき日であり、現場での熱戦を前に無我夢中で筆をとったその時の熱い思いが作品となったもので、皆さんと少しでもその場の雰囲気共有できたとしたら望外の幸せであった。



3. 10回目の写真展を終えて

永田宗義会員

4月28日(金)~5月14日(日)の15日間コーヒーショップ「白樺」の絶大なるご支援の下、10回目の写真展を新規に撮影した28点の写真と6回~9回の展示で大変好評であった6点の写真も併せて展示して開催しました。大変多くの皆様のご来訪賜り、過分なるご感想や好印象などをいただき、誠に感謝に堪えません。

写真展のテーマとしては「彩り空間の自然美を求めて…」感動し心に相通じる風景や美しい花々を感謝の心でカメラに収めています。そのために、心掛けていることは「三感主義」であります。日頃は、感心を持って撮影場所や天候や時期などを色々考えて出掛け、目指す自然美に向き合い感動した構図で撮影します。その結果を色々検討して意図した写真に撮影されていることに感謝しながら選択して展示候補の写真にしております。これからも健康のためにも意欲を以ってさらに精進してまいります。



展示会場における筆者

◆◆◆ 寄稿(1) ◆◆◆

台湾に日本人の足跡を訪ねて(2)

稲田興会員

◆6名の教師(六氏先生と呼ばれている)

六氏先生とは、楯取道明(38歳、山口県、久坂玄瑞の甥)関口長太郎(37歳、愛知県)中島長吉(25歳、群馬県)桂金太郎(27歳、東京府士族)井原順之助(23歳、山口県)平井数馬(17歳、熊本県)の6名である。

注記；年齢は殉職時の歳である。



台北駅より北へMRT淡水信義線で6つ目の士林駅から車で7、8分の所に芝山公園があり、この山頂近くに「六氏先生の墓」(右図)として祀られており、「台湾教育の聖地」と称されている。

○この地が「教育の聖地」となった経緯

明治28年5月下関条約により台湾が日本に割譲され、日本による統治が始まると、当時文部省の学務部長心得だった伊沢修二は、初代台湾総督に就任した樺山資紀に「台湾の統治政策中、教育こそ最優先すべきだ」と教育の必要性を訴え、同年6月、日本全国から集めた人材7名を連れて台湾へ渡り、台北北部の芝山巖恵濟宮(しざんがんけいさいぐう)という道教寺院の一部を借りて、翌7月に芝山巖学堂という小学校を設立した。生徒6人で開校し、その年の暮れには生徒数21人に増えていた。

この頃は日本の統治に反対する勢力による暴動が頻発しており、治安が非常に悪かった。周辺住民は教師たちに避

難を勧めたが、彼らは「死して余榮あり、実に死に甲斐あり」と教育に命を懸けていることを示し、芝山巖を去ろうとはしなかった。年明けの元旦、登校した6人の教師(他の2人は一時帰国中)が下校途中、約100人の抗日ゲリラに遭遇。教師たちはゲリラたちに説諭したが聞き入れられず、用務員の小林を含む7人全員が惨殺された。この事件は台湾にいた日本人を震撼させたのみならず、日本政府にも重要視され、丁重に葬儀を行うとともに、台湾統治の強化が行われた。芝山巖学堂は3ヶ月間の授業停止の後に再開。

彼らの台湾の教育に賭ける犠牲精神は「芝山巖精神」と呼ばれ、人々の間で語り継がれるようになった。この「芝山巖精神」は当時の台湾教育者に多くの影響を与え、統治直後総人口の0.5%だった台湾の学齢児童の就学率が昭和18年頃には70%にもなり、終戦時には識字率が92.5%に達した。これが後に台湾の経済発展を推進する基盤となった。元々台湾語には文字が無かったことから考えると、驚異的な数字である。



現在、毎年2月1日には慰霊祭が執り行われる。ここは芝山文化生態緑園として整備され、ハイキングコースとしても親しまれており、十数人のウォーカーに出会った。なお、私にとって入口の急な石段(120段)は大変きつかった。

南宗寺献茶と堺で垣間見た事

4月28日(金)大阪堺南宗寺にて、並通国師の祥月忌があり、官休庵家元献茶の式に参加すべく前日27日に堺入りした。初めての地、喜々と降り立ったが小雨。駅前の与謝野晶子立像が濡れて人影無し。明治11年菓子商駿河屋に生れ云々と説明の碑の脇を抜け、今日の宿ホテルアゴラへ向かう。そのアプローチにオランダ帆船を型取った敷石、直径4m位美しいので踏み進むのを躊躇し、踏絵にあらずだがグルリ回ってチェックイン。堺の超有名な人は、先の歌人と河口慧海(国交のないチベットに二度潜入した仏教の学徒)と言わずと知れた利休の三人だ。

阪東熙子会員



ミュージアムがあるとして草鞋とかずに街へ出た。ザビエル公園出島町と長崎みたいな地名、漁港近くにはとれとれ市とあり面白い。市内は一条から七条通りと碁盤格子で判り易い。大仙公園内の博物館で凄く江戸中期の銃を見た「慶長大火縄銃」長さ3m重さ135kgで関取り級の重さ、扱いや如何。筆者ライフルに関心あり興味津津。仁徳、履中の五世紀頃の御陵があるかと思えば、サッカー場16面フットサル場8面と日本最大というセンターも併せ持つ、バイタリティー溢れる堺気質をみた。

さて目的の献茶当日28日は天気上々。斎戒沐浴し、紋付礼装で八時半に南宗寺に着。静まりかえった苑内は松の緑濃く、まるで能舞台の橋がかりを進む思いで早くも緊張した。先ず紹鴎、千家一門津田宗久宗達の供養塔に手を合わせた。京都大徳寺千家のおん前と違った温かみをさびれて背丈の低い塔に感じられた。16世紀建立の大雄寶殿は風雨に晒され寂れ、五間四方の仏殿周辺を、1人トボトボと板壁伝えに歩き別世界に身を置く一時を得た。方丈に戻り定刻献茶の儀が済み、方丈正面の左回廊へ向かうべく雲水作務により磨かれた杉戸に手を掛けた時、頭上から気配を感じ、見やると、「関」の大きな扁額。碧岩集八によれば濫りに通れぬ関所とある関の書。「待て」と聞こえぬ声を感じた。今89歳にして初めて体験した徒ならぬ靈感にうたれ直立不動頭を垂れた。私の後から六條様が続いておられ、尼僧に押されるように敷



「関」の額(135×90cm)

居をまたいだ。古刹の体験有りがたかった。

昨今はネット等で大量の資料を得られるが「百聞は一見に如かず」と南宗寺をあとに堺の待庵を特別申し込み見学した。京都待庵の創建当初の室内を復元とあり、床柱の足元炉の位置等学究され、「さかい利晶の杜」は再来したい。心残りはあなごと利休酒は看板だけ、茶に相応しい和菓子が見つからず、和三盆とあっても角砂糖のようにガリガリで百歩譲っても戴けない。堺衆の名にかけて今度は探し求めることに。東京から私一人だったのにお土産なしで百舌鳥駅より帰京の途についた。

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

5月誕生日を迎えられました！

6月誕生日を迎えられました！



永田宗義会員



左から滝川道男・北村克彦両会員

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

万緑のわが街多摩、思わず小学唱歌「若葉」を口遊む。鈴木会員の巻頭言「ホームタウンで楽しもう」に相応しく充実した73号となりました。○山田会員の一泊研修旅行は、1日目暴風雨の中を走り抜け無事宿に、運転手さんに感謝。好天の2日目は初めての箱根越えを素晴らしい筆致で印象的でした。○澤会員の卓話；この街の「再生・創生」が喫緊の課題と「10万人の訪日客を掴め」とインセンティブなご提案。実現へ！○高村会員の「多摩の湧き水際を楽しむ」は、連光寺界隈の湧き水を尋ね歩き、学術的な解説と多摩の自然を満喫。○中村会員の「交流会」は、鎌倉PC殿の綿密なお膳立と、圧巻は荒梅雨を厭わず大仏殿見学での熱き解説に感動、感謝感激です。○[会員の活動]では、山田・岡野両会員の原生展、10年連続の写真展の永田会員、各位の創作意欲に深く感銘。また堀内会員の江戸時代関戸輩出の相沢五流・伴主親子の芸術活動の紹介は多摩の誇りです。○稲田会員の「日本人の足跡を訪ねて」第2弾に、明治の気概と台湾の人達の敬虔さに感激。○阪東会員の「堺」訪問記は、茶道の師匠の慧眼と好奇心旺盛ライフルに及び興味津々。○お花見会の川柳は楽しい企画で今後にも期待。

(広報委員長 登坂征一郎記)